



ASAHIYAMA ZOO 50th ANNIVERSARY 1967-2017

冬期開園期間は2017年4月9日(日)までとなっております。
開園時間は10:30~15:30(入園は15:00まで)。

旭山動物園だより

発行所
旭川市旭山動物園
動物図書館
☎ 36-1104



脂肪を蓄えて寒さに耐えます

夏はほっそりしているエゾタヌキ。冬は、秋から蓄えた皮下脂肪と、ふかふかの冬毛により、太っています。エゾタヌキは冬眠をしません、この皮下脂肪を消費しながら、冬ごもりをします。ゴマフアザラシやホッキョクグマにも分厚い皮下脂肪があります。皮下脂肪は、体内の熱を外に逃がさない断熱材のような役割をもっているんですよ。



毛の色が、景色にとけこむ

冬の色に換わります

北海道の森林に生きるエゾシカは、木の肌の色に近い灰褐色に、雪原を跳ぶエゾユキウサギは、雪のように真っ白な冬毛になりました。北極圏のツンドラ(凍土)地帯を生息地とするホッキョクギツネも雪の塊のように白い冬毛、北極圏周辺のツンドラ地帯や針葉樹林地帯に分布するトナカイも、首の周りの毛が白くなりました。その動物が活動する場所によって、毛色の換わり方も様々です。

寒い冬にしか見られない動物たちの「息」「姿」

冬の期間中で最も寒いと言われる2月ですが、「雪あかりの動物園」も終わり、「もう少し我慢すれば春だな」と思える時期になってきましたね。そんな寒い時期だけ見られるもの一つが、動物たちの「息」です。私たちがヒトが吐く息も寒い日には白くなりますよね？



息が白く凍てつく冬も 元気な動物たち

私たちヒトは、コートや防寒靴などで冬の寒さをしのぎます。動物たちは違います。毛(もしくは羽)自体が冬仕様に生え換わったり、皮下脂肪を増やしたり(皮下脂肪が増えることで体内の熱が外に出にくくなります)して、寒い冬を越します。タンチョウは、お腹に長い脚をひっこめ、体温を奪われるのを防いでいます。同じ鳥類でもシロフクロウは、脚に羽毛が生えています。極寒の地域に生息するレッサーパンダ(ヒマラヤなど)やアムールトラ(シベリアなど)、ユキヒョウ(ヒマラヤなど)などは、立派な冬毛をもっているのです。寒さや雪をもらともしません。昨年生まれた子たちは、雪にまみれて元気に遊んでいます。



【上】脚には羽毛があり、クチバシの露出も少ない、極寒地でも耐えられる体をしたシロフクロウ。白い羽は、雪の色に同化し、景色にとけこみます

【上】タンチョウは、長い脚を腹にひっこめて体温を奪われるのを防ぎます

【左】昨年の夏に生まれたレッサーパンダの子たちは初めての冬を迎えました

期間限定 特別展示で ヨツユビハリネズミ登場

「かば館」地下の、「アフリカのゲテモノたち」のコーナーで、西アフリカや東アフリカなどに分布する「ヨツユビハリネズミ」を期間限定で展示中です。ハリネズミと名がついていますが、食虫目というモグラに近い仲間、ペカエルなどを食べる動物です。ツツとしても人気の生き物です。

今年も、あざらし館に「流水ひろば」ができました!

あざらし館のプールへの雪入れ作業初日は1月11日。何度か雪を入れ、水をかけ、今年も「流水ひろば」が完成しました。氷上では、アザラシたちが休んでいる姿や、全身を使って移動の様子を間近に観察でき、あざらし館内の大水槽からは、氷の下を泳ぐアザラシが見られます。アザラシは必ず、息をしに水面から顔を出します。どの穴から顔を出すか当てっこしてみてもいいかもしれません。

これから開催のイベント

2月

- 2月のワンポイントガイド 19(日)、26(日)
- 25(土)の三度のメシより旭山、26(日)旭山動物園・自然観察会は、それぞれ前日まで参加受付中

3月

- 3月のワンポイントガイド 5(日)、12(日)、19(日)、20(祝)、26(日)
- 絵本の読み聞かせ 3/11(土) 11:00~ / 動物図書館
- ※冬期開園期間は4/9(日)まで



ワピチの「サチ」、老衰のため死亡

1月10日、大型のシカの仲間・ワピチの「サチ」(メス)が、老衰のため死亡しました。昨年の秋ごろから前肢の関節痛が悪化し、12月に入ってから自力で立ち上がることができず、飼育スタッフが毎日立ち上がるのをサポートしてきました。が、1月に入り起立不能になり、そのまま亡くなりました。「サチ」は1987年12月29日、旭山動物園にやってきました。ワピチの飼育下での寿命は15~20年とされていますが「サチ」は31歳。過去に10頭もの子を産み、育てました。大往生の死でした。